

### 3 推進体制作り

#### スタートカリキュラム委員会の運用

##### 構成員

・校長、副校長、教務主任、1～3学年担任、養護教諭、栄養教諭特別支援 Co.

##### 活動内容

・全員揃っての定期会議は年度初めと年度末

・メンバーによるやりとり

ex.給食開始時…1学年担任、栄養教諭

生活科年間計画の見直し…1,2学年担任

1学年の単元配列の検討…教務主任、1学年担任

・スタートカリキュラムの週計画の共有、学級通信の配付

スタートカリキュラムを1学年担任だけに任せることなく、教育課程に位置付けていくために、各学校の状況に合わせて、持続可能な形を探っていくことが大切です。1に示した手立てを基に、資質・能力ベースのカリキュラムについて、またその実施の意義について学校全体での共通理解を図ることが肝要です。さらに、幼児教育施設からの意見も取り入れ、児童や地域の実態に応じて改善を図っていくことも大事です。加えて、スタートカリキュラムの意義について、保護者とも入学前から共有し、児童を取り巻く大人が手を携えて育んでいこうという意識を共通にもつことも、児童の育ちをより確かにしていきます。

### Ⅲ 研究のまとめ

幼小接続において何よりも重要なのは、接続期の子供たちの発達や学びの状況について、幼小の教職員が共通理解することです。その上で、一人一人の今ある姿をスタートとして、その後の指導について共に考えていくことが大切です。小学校教員の誰が1学年担任になっても、育まれてきた資質・能力を見取り、育んでいくことができるように、サポート体制を備えた組織としてつながっていくことが基盤となります。

スタートカリキュラムが計画のみに終わらず、実効性のあるものとして機能するためには、丁寧な児童理解と、それに伴って主体性をどのように育てたいかという教師のビジョンが大切です。

今回の実践により、1学年担任以外の教員からも、以下のように意識や行動が変化すると質問紙への回答をいただきました。

- ・「まだできない」ではなく「できていることは何か」という目で見ようという気持ちに変わった。
- ・園を参観することで1年生へのつながりを意識して子供たちの様子を見ることができた。
- ・子供の独り言を、注意や無理になくすのではなく、耳を傾け、その子の思考を理解しようとした。
- ・教師側からの一方的な指示ではなく、子供のつぶやきや過去の経験をくみとって生かしていこうと感じました。

今後も、学習する子供の視点に立ち、学び続ける意欲をこの先につないでいくような接続期の教育の在り方について探っていきたいと考えます。

研究報告書と補助資料は下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。

<https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/211youji.html>



QRコードはこちら



入学説明会で保護者に配付したリーフレット(報告書 p.68)

研究主題

## 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究

—低学年の発達の特性に応じた指導の工夫・改善とその推進体制作り—

【研究担当者】◎吉田 澄江 福田 勝雄

早川 貴之 及川 伸也

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

### I はじめに

#### 資質・能力ベースの接続に向けて

「学習する子供の視点に立つ」を大前提とした、平成29年改訂の学習指導要領等で、育みたい資質・能力が、幼児期から高校卒業までを見通し、一貫的に示されました。小学校学習指導要領では、『幼児期の終わりまでに育って欲しい姿』（「10の姿」）を踏まえた指導をすることにより、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすることと明記されました。特に、入学当初の幼小の円滑な接続の鍵として「スタートカリキュラム」の編成・実施が規定されました。

#### 現状と課題

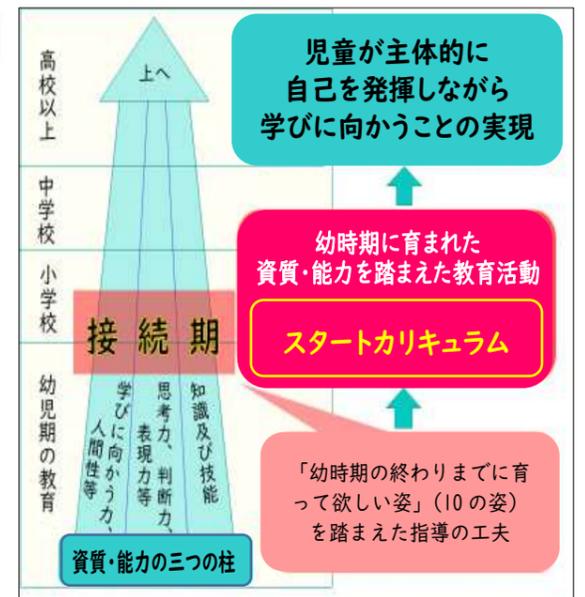
これまでも入学当初には、小学校生活に慣れるための工夫が行われてきましたが、その編成・実施には、大きく2つの課題があります。

- 1 指導内容面…0スタートの適応指導になりがちで、幼時期に育まれた資質・能力を生かしていない
- 2 体制面…年長・1学年担任に任せがちで、組織として評価・改善が行われにくい

#### 資質・能力をつなぎ育てるためのスタートカリキュラム

この課題解決のために、幼児期の教育から小学校教育に接続していく時期を「接続期」として捉え、育みたい資質・能力を幼小間で共通理解し、その上で指導について工夫・改善していくことが求められます。

そこで、この研究では、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた教育活動、つまり発達や学びをつなぐスタートカリキュラムを実施し、1学年児童が「主体的に自己を発揮しながら学びに向かうこと」の実現を目指すとともに、その実践を生かして、資質・能力を中学年へとつなぐ低学年カリキュラムの見直しを図りました。また、学校組織の中で計画・実施・評価・改善を行い、次年度以降のよりよい実践につながる推進体制の在り方を探りました。



#### 1stステージ

小1プロブレムの解消を目指す

・適応指導中心

#### 2ndステージ

安心してスタートすることを目指す

・幼児期の活動・時間の使い方を導入  
・一人一人に寄り添う

#### 3rdステージ

いきいきと学びに向かう子供を目指す

・幼時期に育まれた資質・能力(10の姿)を発揮  
・思いや願いを生かした合科的・関連的な学び

本研究で目指す

